

# ゆかたの着装を通して日本文化にふれる取り組み（1） —教科の横断的な学びから—

有友愛子 古川日出夫 藻利國恵  
田万幸子 渡邊明志 坂口嘉菜

伝統や文化に関する教育の充実を目指し、家庭科の衣生活の学習としてゆかたの着装に取り組んできた。ゆかたの着装の学習とその発展学習としてゆかたの着装を通して日本文化にふれる学習を、総合的な学習の時間と関連づけた横断的な取り組みとして行った。ゆかたの着装の学習では、電子黒板やタブレットPCを活用し、ゆかたの着付けと帯結びを1人ずつひと通り体験させた。ゆかたの着装として日本文化にふれる学習では、「和楽器（箏）にふれる」、「短歌を詠む」、「俳句を詠む」、「点茶」、「和のもてなし」について取り組んだ。生徒らは意欲的に取り組み、ゆかたを着装して日本文化にふれることで、日本の衣文化や伝統的な生活について興味・関心をもつきっかけになったようである。

【キーワード】 ゆかた 着付け 伝統文化 電子黒板 タブレット PC

## 1 はじめに

和服として着物は、日本の民族衣装として長い歴史をもち、現在に受け継がれており、世界中の人に「Kimono」と呼ばれているほど、日本を代表する伝統的な文化のひとつである。また、日本には多種多様な伝統文化があるが、正装を和服とするものが多くみられる。そこで、生徒が日本の伝統的な文化にふれる取り組みの際、和服のひとつであるゆかたを着装することにより、日本文化に親しみ、興味・関心を持たせたいと考えている。

平成24年度から完全実施された中学校学習指導要領における教育内容の主な改善事項の中に、「伝統や文化に関する教育の充実」があげられている。本校中学部では平成22年度から家庭科の衣生活の学習としてゆかたの着装を扱うことにした。

平成22年度はゆかたの製作とゆかたの着装に取り組み、本校高等部専攻科生活造形コースが文化祭で開催しているファッションショーに参加した。平成23年度からは、家庭科と総合的な学習の時間の横断的な学習活動としてゆかたの着装を家庭科で取り組み、総合的な学習の時間として、ゆかたを着て日本の伝統的な文化にふれる取り組みを行っている。

本報告では、家庭科として取り組んだ「ゆかたの着装」と、総合的な学習の時間と関連づけた横断的な取り組みとしての「ゆかたを着て過ごしてみよう」

をテーマとした学習について報告する。

## 2 学習のねらい

学習のねらいは、「ゆかたの着装を通して和服と洋服の構成や着方の違いに気付かせ、衣文化に関心を持たせる。」「日本の衣文化や伝統的な生活文化に親しむことで興味・関心を持たせる。」とした。

## 3 指導計画

指導計画を表1、2にそれぞれ示した。対象は中学部3学年であり、平成23年度15名、平成24年度14名とし、授業は基本的に学級ごとに行った。

「和服を知ろう」「ゆかたを着てみよう」の単元は家庭科の時間とし、「ゆかたを着て過ごしてみよう」の単元は総合的な学習の時間と関連づけた横断的な学習として行った。「ゆかたを着て過ごしてみよう」の単元では、生徒の興味・関心等を考慮して体験する内容の検討を行った。

また、電子黒板やタブレットPC等を活用した授業展開についても検討を行った。本校中学部家庭科においては、実技を伴う学習の際、操作手順を示した動画に字幕を挿入し、電子黒板やタブレットPC上で活用している。ゆかたの着装の学習での取り入れ方について検討をしながら取り組んだ。

表1 指導計画 [平成23年度] (全4時間扱い)

単元	主な学習活動
和服を知ろう (1時間)	○日本の民族衣装を通しての和服について知る。 ○ゆかたについて学ぶ。 ○ゆかたを羽織り、ゆかたの構造や各部の名称を確認する。 ○ゆかたを畳む。(1回目)
ゆかたを着てみよう (1時間)	○着付けの手順を確認する。 ○ゆかたの着付けと帯結び。(1回目) ○ゆかたを畳む。(2回目)
ゆかたを着て過ごしてみよう (2時間)	○ゆかたの着付けと帯結び。(2回目) ○ゆかたを畳む。(3回目) ◎和楽器(箏)にふれる。 ◎和のもてなしに挑戦する。 ◎短歌を詠む。

表2 指導計画 [平成24年度] (全6時間扱い)

単元	主な学習活動
和服を知ろう (1時間)	○日本の民族衣装を通しての和服について知る。 ○ゆかたについて学ぶ。
ゆかたを着てみよう① (1時間)	○ゆかたの構造や各部の名称を確認する。 ○着付けの手順を確認する。 ○ゆかたの着付け。(1回目) ○ゆかたを畳む。(1回目)
ゆかたを着てみよう② (1時間)	○ゆかたの着付け。(2回目) ○帯結び。(1回目) ○ゆかたを畳む。(2回目)
ゆかたを着てみよう③ (1時間)	○ゆかたの着付け。(3回目) ○帯結び。(2回目) ○ゆかたを畳む。(3回目)
ゆかたを着て過ごしてみよう (2時間)	○ゆかたの着付け。(4回目) ○帯結び。(3回目) ○ゆかたを畳む。(4回目) ◎和楽器(箏)にふれる。 ◎点茶に挑戦する。 ◎俳句を詠む。

(○家庭科, ◎総合的な学習の時間)

## 4 「ゆかたを着てみよう」の学習について

## (1) 学習のねらい

ゆかたを着る体験を通して、和服の構成が洋服とは異なることに気付かせ、主要な部分の名称や、ゆかたの着装に必要な用具の名称等を覚えることをねらいとした。

## (2) 授業の様子

授業は多目的室で行った。ゆかた・帯・着付け道具のセットを1人1組ずつ用意し、ゆかたの着付けと帯結びを1人でひと通り体験できるようにした。

着付けの手順を確認する際には、デジタルテレビとインタラクティブユニット・黒板アシスタント(内田洋行)を組み合わせた電子黒板で、提示資料や着装方法を示した動画(図1)を活用した。また、生徒がゆかたの着付けや帯結びに取り組む際には、着装方法を示し動画を平成23年度は電子情報黒板で、平成24年度はタブレットPC(1人1台)を活用して視聴しながら取り組ませた。

着装方法を示した動画は、Web上で公開されている文化ファッション研究機構による『「きもの」文化の伝承と発信のための教育プログラムの開発ー「きもの」の着装を含む体験学習と海外への発信ー』の動画に字幕を挿入して作成した。この動画は、はじめて着付けに挑戦する人でもわかりやすいよう、ポイントの解説が丁寧であり、揃えなくてはならないところは、画像に印や線なども加えられている。さら公開されている動画には字幕が挿入されていないため、プロジェクトチームから動画のデータを借り受け、ビデオ編集ソフトウェアで字幕を挿入した。



図1 タブレットPC上の着装方法を示した動画

① 着付けの手順の確認

ゆかたの着付けの手順を教員が実演し、併せて電子情報黒板で提示資料を活用しながら学習を進めた。ゆかたの各部の名称や、男女の着付けの手順の違いを確認し、学習の最後には確認問題（図2）に取り組ませた。確認問題は選択問題とし、選択肢を電子黒板上で移動させる形式の問題を自作した。学習した内容は学習プリントにまとめさせた。

生徒達が具体的なイメージを持たせながら説明を行えるよう、情報を視覚的に提示するよう心掛けた。ゆかたの各部の名称の確認の際は、提示資料と併せてゆかたに文字カードを貼り付けながら説明を行った。また、着付けの手順の説明では、教員の実演と併せて電子黒板で提示資料のイラストや動画等を活用して行った。確認問題に取り組んだ際は、問題ごとに代表生徒に電子黒板上で正しい選択肢を文字カードやイラストを移動させながら取り組んだ。

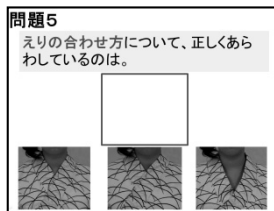


図2 確認問題の一部①（えり合わせ）

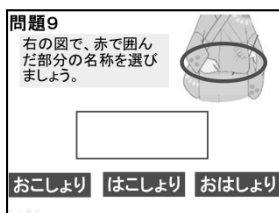


図3 確認問題の一部②（各部の名称）



図3 電子黒板で確認問題に取り組む様子

② ゆかたの着付けと帯結び

ゆかたの着付けと帯結びの体験では、教員の実演と説明を思い出したり、タブレットPC上の動画で確認したりしながら1人1人取り組んだ。（図5）

男子のゆかたの着付けはおはしよりを作る工程がある女子と違い、比較的スムーズに進める生徒が多くみられた。洋服のベルトを締める感覚で、腰紐をウエストの位置で締める生徒が多くみられたため、丁度良い位置に締められるよう着装方法を示した動画を手本とさせ、骨盤の位置で締めることを確認させ、きれいに着られよう心掛けさせた。

女子は、身丈が自分の身長程の長さのゆかたのえり先と背中心を持ちくるぶしの位置に合わせ、裾の角度に気を配りながら下前と上前を合わせたり、おはしよりを作ったりと、ひとつひとつの工程に苦戦する様子がみられた。最初は戸惑いながらも、教員や友達の手助けを得たり、タブレットPC上の動画で繰り返し手順を確認したりしながら真剣に取り組む様子がみられた。



図5 タブレットPCの動画を活用してゆかたの着付けに取り組む様

ゆかたの着付けの理解につなげ方は、友達同士教え合ったり、着装方法を示した動画で繰り返し理解したりと生徒によってさまざまであった。平成24年度は1人1人がタブレットPC上で動画を視聴できたことで、より主体的に着付けに取り組む、理解を深めようとする様子がみられた。

着付けに慣れてくると、体験を通して得られた知識をもとに、着付けに取り組む様子がみられた。姿見で自分の着付けを確認し、えり元や裾、帯の形等の着付けの仕上がりを友達同士で確認する様子が見

られた。(図6)仕上がりを確認する際は、教員からのアドバイスの他、動画の中でポイントとして紹介されている部分を中心として取り組む様子が見られた。生徒達は、動画を繰り返し視聴することで、モデルの方のきれいな着付けが記憶として残り、細かな部分の仕上がりにこだわりをみせる生徒もみられた。



図6 友達と協力して着付けに取り組む様子

帯結び等、姿見だけでは仕上がりの様子がわかりにくい部分は教員が後ろ姿等をカメラで撮影して確認させ、手直しの仕方を指導した後、手直し前と手直し後の画像を比較をさせた。(図7)画像で確認することで、手直しすることで仕上がりがきれいになることを実感し、帯結びの手順等の理解にもつながったようである。



手直し前

手直し後

図7 デジタルカメラで撮影した帯結びの確認画像

また、回数を重ね、ゆかたの着付けに慣れてくると、寝ころんだり、本を読んだりしてくつろぐ様子や、団扇を片手に下駄を履いて廊下や階段を歩く練習をしたりと、生徒達はゆかた姿を楽しむ様子が見られた。

授業の最後にゆかたを着装した全身の写真を撮影

し、活動記録シート(図8)に貼らせ、5段階評価による自己評価、わかったこと・気付いたこと、感想を記入させ、ポートフォリオファイルに保存させた。活動記録シートには、ゆかたの着心地や着付けのコツ、少しずつスムーズに着られるようになったことに対する喜び等が記入されていた。

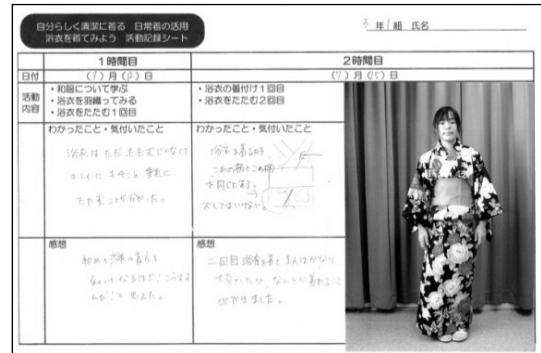


図8 活動記録シート

## 5 「ゆかたを着て過ごしてみよう」の学習について

### (1) 学習のねらい

ゆかたを着て日本の伝統文化を体験することで、伝統文化についての興味・関心を高める。

### (2) 授業の様子

#### ① 和楽器(箏)にふれる

音楽との横断的な学習として、事前に音楽の授業で、「さくらさくら」の唱歌を扱い、和楽器の演奏として箏で「さくらさくら」の演奏に取り組んだ。

導入として、生徒達が修学旅行先の京都で体験した「八つ橋」作りと箏との関係について触れながら、爪のつけ方、座り方や糸の配置等、箏の演奏の基礎について確認した後、演奏に取り組んだ。

2人1組のペアになり、ひとりが弾いているところの譜面や弦を指さしをして演奏の手助けをしながら取り組む様子が見られた。(図9, 図10) 爪で弦を弾くことは想像していたよりも難しかったようであるが、あらかじめ音楽の時間に歌唱に取り組んでいたことで、比較的スムーズに取り組むことができた。次の音楽の時間にもう一度「さくらさくら」の演奏の復習にも取り組んだ。



図9 友達と協力して箏の演奏に取り組む様子①



図10 友達と協力して箏の演奏に取り組む様子②

② 短歌を詠む

国語との横断的な学習として、短歌作りに取り組んだ。例年応募している短歌コンクールに応募することを目標として、ゆかたを着て過ごして感じたことを短歌を読み、短冊に書いた。(図11)

ゆかたを着て涼しさを感じたこと、花火や夏祭り等ゆかたから連想したこと、うちわや下駄等ゆかたと共に身に付けるもの、箏の音や響きを感じたこと等を題材としてあげる様子がみられた。

生徒が詠んだ短歌は、「さくら柄 つばき柄かと ゆかたの柄 ひとつで迷う 私かな」、「琴調べ 幾重もの 音ならし 一つの曲を 弾こうとす」、「初めての さくらさくら 琴の調べ 和楽を知りて 日本を知る」など、それぞれが日本の伝統文化を感じた気持ちが短歌に込められていた。その後の国語の学習に手直しを加え、コンクールに応募した作品の中には入選したものもあった。



図11 短冊に書いた短歌

③ 俳句を詠む

国語との横断的な学習として、俳句作りに取り組んだ。この学習への取り組みに向け、事前の国語の授業で、俳句の鑑賞に取り組んだ。事前の授業の復習を行った後、季語と切れ字を入れた俳句を詠んだ。夏の俳句と、季語・切れ字についてまとめた「俳句のつくり方」の学習プリント(図12)を参考にさせながら、それぞれが感じたこと詠み、短冊に書いた。(図13, 図14)

生徒が詠んだ俳句は、「みな浴衣 色とりどりの 個性かな」、「浴衣着て 昔のオシャレ 楽しむ今日」など、ゆかたを着て過ごした楽しさや自分で点てた抹茶の味、箏の音色等を詠った句がみられた。この取り組みで詠んだ俳句の他、その後の学習で詠んだ俳句含め、お互いの作品を鑑賞しあったり、コンクールに応募したりした。

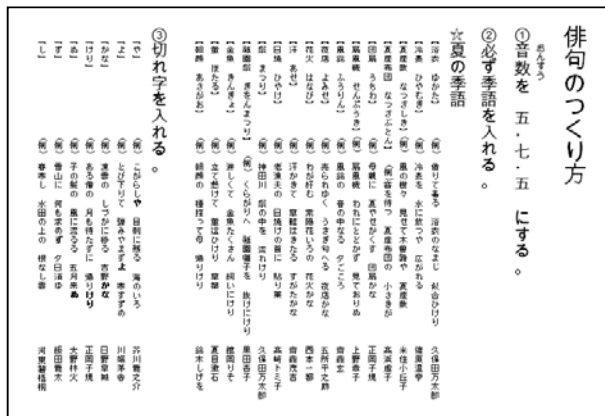


図12 学習プリント「俳句のつくり方」



図13 俳句作りに取り組む様子①



図14 俳句作りに取り組む様子②

#### ④ 和のもてなしに挑戦する

和室でお客様に接客する作法として、お茶とお手拭きの出し方に取り組んだ。はじめに、教員が解説と手本を示した後、生徒同士でもてなす側ともてなされる側にわかれ、実際に挑戦した。(図15, 図16)

お茶の出し方、挨拶の仕方、座布団のすすめ方、言葉遣い等、気を配らなくてはならないことが多く、もてなす側ももてなされる側も緊張した様子が見られた。特に、ゆかたを着ているため、想像していたよりも動きにくかったり、慣れない作法に戸惑ったりしながらも、集中して取り組んでいた。礼儀作法に関する知識が将来必要になることを想像しながら、友達同士のやり取りを真剣にみている生徒もみられ、有意義な学習であった。



図15 お茶の出し方の説明を受ける様子



図16 もてなしに挑戦する様子

#### ⑤ 点茶に挑戦する

茶道の要素のひとつである抹茶を点てる点茶の体験をした。季節柄、冷水で点てる「水点て抹茶」に挑戦した。

ほとんどの生徒が抹茶を点てるのは初めての体験であったが、「抹茶茶碗」、「茶杓」、「茶筌」等必要な用具の名前や基本的な作法を確認しながら、茶碗と茶筌を持ち、真剣な表情で点茶に取り組んでいた。自分で点てた抹茶をいただく時には、背筋を伸ばし、茶碗の向き、手の添え方等の作法にも気を配りながら、あらたまった気持ちでいただく様子が見られた。(図17) 生徒達は、修学旅行で京都を訪れた際、散策の途中で老舗の和菓子店で抹茶と和菓子をいただく機会があった。京都の風情ある雰囲気でもいただいた薄茶とはひと味違うおいしさを味わうことができたようであった。



図17 自分で点てた抹茶をいただく様子

## 6 考察

### (1) 「ゆかたの着装」について

家庭科の学習として行った「ゆかたの着装」の学習後、5段階評価で質問紙によるアンケートを行った。

ゆかたの着装方法を理解することができたかについて質問したところ、「よく理解できた」44.4%、「まあまあ理解できた」55.6%という結果が得られた。(図18) 繰り返し練習したり、電子黒板やタブレットPC上に提示された動画を活用したりしながら、意欲的に取り組んだ様子からも、ゆかたの着装をひと通りの体験をすることにより、概ね理解することができた様子が見えてきた。

## 60 ゆかたの着装を通して日本文化にふれる取り組み（1）

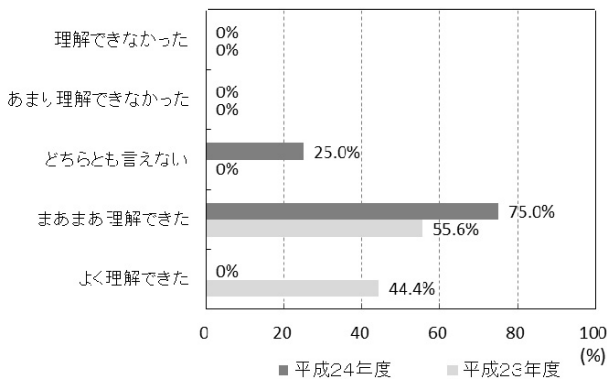


図18 ゆかたの着装を理解することができたか

ゆかたの着装方法を示した動画の提示方法が平成23年度と平成24年度では異なり、平成24年度は生徒1人1人がタブレットPC上で提示して取り組んだ。生徒からは、着付けをするときに自分の近くに置いて使えるので便利である、自分のペースで、再生や一時停止ができてわかりやすかった等の感想があった。

平成24年度は、着付けに取り組む回数が多く、1人1台ずつタブレットPCを持つことで、動画で細かな部分を確認しながら取り組むことができた。このことから、理解度が高まるのではないかと予想していたが、生徒のゆかたの着付けや帯結びの理解度に対する自己評価の結果は平成23年度よりもやや低い結果となった。平成24年度の生徒の方が、ゆかたの着付けや帯結びに取り組む回数が多かったが、1人でゆかたを着られていた。回数を重ねることで、生徒達はさまざまな課題が見つかり、もっときれいに着られるようになりたいという意欲が、結果に反映したのではないかと考えている。

今後ゆかたを着てみたいかどうかについて質問したところ、「とてもそう思う」66.7%、「まあまあそう思う」22.2%、「どちらとも言えない」11.1%という結果が得られ、半数以上の生徒が今後もゆかたを着てみたいと答えていることがわかった。(図19)

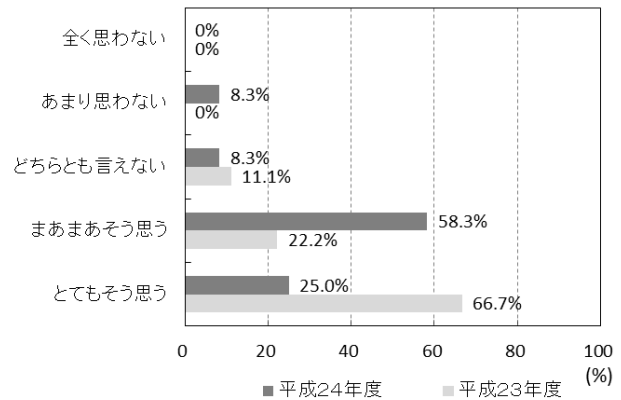


図19 今後ゆかたを着てみたいかどうか

それぞれの理由として、「あまり機会はないけれど、祭りのときに着て行けたらいいなと思う。」「せっかくみんなより帯の結び方を覚えられたから、花火大会に着て行ってみたいなあと思いました。」等、具体的にゆかたを着て行きたい場面を考えている生徒が多くみられた。

### (2) 「ゆかたを着て過ごしてみる」について

ゆかたを着て過ごしてみる体験について、生徒の感想を聞いてみたところ、「日本の和を深く知ることができてよかったです。」「足が痛くなったが、昔はこういう暮らし方だったのかもしれない。」「浴衣に帯を締めて下駄をはくと、夏だなという感じがした。ワクワクした。」「浴衣は涼しくて模様もきれいでとても楽しい時間を過ごせた。」「和服(浴衣)を見たり、着たりする体験はいままでやったことがなかったので、体験できてよかったです。」等の感想がえられた。それぞれの体験については、「箏が楽しかった。いい音でした。」「箏は難しいかなあと思ったけれど、実際にやってみたら簡単でした。」「お茶とお菓子のすすめ方はよくわかりました。まずおじぎをして、おかしを先において、お茶をおいておじぎをする。今日は本当に楽しかったです。また浴衣を着てみたいです。」「抹茶を点て、日本らしい文化を楽しむことができた。」「抹茶を上手く点てることができたし、おいしかった。」等の感想が得られた。生徒達にとって有意義な体験であったようである。

## 7 今後の課題

和服であるゆかたに着目して日本文化にふれると  
りくみとして、家庭科と国語、音楽等との横断的な  
学びに取り組んだが、取り組みを通して、さらに発  
展させることが可能であることを実感した。

生徒は、ゆかたの柄選び、帯の色合わせ、団扇や  
帯等の小物選びなどにこだわる様子がみられた。昔  
ながらの日本の柄や、色あわせや小物合わせの楽し  
み方、風呂敷や手ぬぐい等の扱い方や現代の生活へ  
のアレンジのしかた等にも触れ、日本の文化を特別  
なものとしてではなく、さりげなく自分の生活に取り  
入れられるよう指導を工夫して行きたい。

文化祭の学年の出し物としての自作の劇の衣装と  
してゆかたを着てみようとする様子がみられた。  
また、中学部を卒業した先輩が、体育祭の応援団の  
演技の衣装として自分で作ったゆかたを着て取り組  
む姿をみて、自分達も作ってみたいという声もあっ  
た。学習したことがゆっくりと時間をかけて生徒の  
生活に生かされる様子がみられることは何より嬉し  
いことである。自分でゆかたが着られたことが生徒  
の記憶に残るよう、生徒の興味・関心にあわせた取  
り組みを工夫し、継続して取り組んで行きたい

## 参考資料

『「きもの」文化の伝承と発信のための教育プログ  
ラムの開発－「きもの」の着装を含む体験学習  
と海外への発信－』（文化ファッション研究機  
構・服飾拠点共同研究20014）  
e-learning site <http://kimono-bunka.ynu.ac.jp/>

## 参考文献

- 有友愛子（2012）ゆかたの着装を通して日本文化に  
ふれる取り組み－総合的な学習の時間と関連  
づけた学習として－，聴覚障害 5 vol.67，  
pp.34-38，聾教育研究会
- 金子俊明・有友愛子・渡邊明志・半沢康至・西分貴  
徳（2012）電子情報ボードを活用した授業の評  
価に関する検討，筑波大学附属聴覚特別支援学  
校研究紀要. 34, 43-50.
- 薩本弥生ら（2012）「きもの」文化の伝承と発信を  
めざした授業実践報告書，文部科学省委託事業  
「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」被  
服文化共同研究拠点における採択課題『「きも  
の」文化の伝承と発信のための教育プログラ  
ムの開発－「きもの」の着装を着装を含む体験学  
習と海外への発信－』研究グループ（平成  
21-23年度）
- 田口恵司（1997）合本俳句歳時記第三版、角川書店